

学校と地域の協働実践セミナー下北地区

平成29年6月29日(木) 下北文化会館 参加者 25名

学校と地域の協働実践セミナー下北地区研修会を、6月29日(木)下北文化会館で開催しました。

今回は講師に弘前大学教育学部教職キャリア支援コーディネーター 特任助教 齋藤 厚 氏をお迎えして、現在の学校の様子や地域と学校が一緒になって子どもたちを育むことの必要性、学校支援ボランティアなどについてお話していただきました。

現在の学校や子どもを取り巻く地域及び社会の現状

近年、子どもたちの遊び場の減少や体験活動の減少、スマホなどメディアの発達に伴う諸問題など、子どもを取り巻く状況が大きく変化しています。

同じように学校も、様々な子どもたち、多忙な先生方、新たな学習内容など、先生方だけでは対応できない状況になってきています。

そこで、学校を支援する地域の人材（学校支援ボランティア）の力がますます重要であると話されました。

講師 齋藤 厚 氏



学校支援ボランティアとは？

「子どもたちのために役に立ちたい」という熱い思いを持って、学校の教育活動や環境整備などを支援するボランティア活動のことで、学校の要請に応じて、できる人が、できるときに、できることを支援する活動です。

【ボランティアの活用で期待される効果】

〈ボランティアにとって〉

- ・ 専門的な知識や特技を活かすことで「自分の中の教育力」に気づき、考え方が深まり、人間性が豊かになる。
- ・ 学校での子どもたちの様子がわかり、学校や子どもたちとのつながりがもてる。
- ・ 向上心が芽生え、地域住民として子どもたちの未来に責任を感じるができる。

〈子どもたちにとって〉

- ・ ボランティアの方々の活動をとおして、社会性やコミュニケーション能力が育まれ、豊かな人間性を培うことができる。
- ・ ボランティアの方々の専門的な知識や技能に触れることにより、学習意欲が高まり、自ら問題解決しようとする能力が育まれる。

〈学校にとって〉

- ・ ボランティアの方々の専門的な知識や技能を活かした身近で内容豊かな授業が展開できる。
- ・ 学校や子どもたちの様子を地域の方々に理解してもらい、「学校と地域のつながり」がより一層深まる。



演習について

後半は、4つのグループに分かれてグループワークを行いました。

「子どもと学校との関わりで気になること」、「学校外の団体との関わりで気になったこと、聞いてみたいこと」などについて各自付箋紙に記入し、それを基にして、グループ毎に意見交換を行いました。

【子どもと学校との関わりで気になること】

- ・小学校入学までに、多くのことを経験してきている子どもが減っている。
- ・地域の4校園（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）の交流が盛んである。
- ・同学年の子どもたちだけで固まり、遊ぶ傾向にある。（縦のつながりがあまりない。）
- ・下北の伝統文化の子どもたちへの継承について。

【学校外の団体との関わりで気になったこと】

- ・たくさんの人々との関わりが少なくなっている。関わりが多いほど、子どもたちは成長するのでは？
- ・昔に比べ、体験学習の機会は増えているが、学校が忙しすぎてなかなか対応してもらえない。
- ・地域のイベントに子どもたちをどんどん出すべき。

これらの意見の他に、学校関係者からは「地域の伝承や祭りについて、学校で祭りの囃子などの練習をし、学習発表会などで発表をしている。しかし、本来であれば地域の人々が子どもたちに伝えていかなければならないにも関わらず、地域で伝えることができる人材（青年層）や活動の場がほとんどない。」ということも意見として出されました。



参加者のアンケートから

- ・「どんな子もステキな持ち味がある。」とてもいい言葉だと思いました。地域との関わりがとても大切だということが改めてわかりました。
- ・地域のボランティアとして、各種取り組めることがあることを知りました。
- ・学校と地域の現状を知ることができました。私たちに何を求めているか、考えさせられました。

〈講師紹介〉



齋藤 厚 氏 弘前大学教育学部卒
 2006年 弘前市立東目屋小学校 校長
 2008年 弘前市立朝陽小学校 校長（2011年3月定年退職）
 現在、弘前大学教育学部教職キャリア支援コーディネーター 特任助教